



政治改革を求めたスリランカ——2024 年大統領・国会議員選挙

Sri Lanka seeks for political reform: 2024 presidential and parliament election

荒井 悦代

Etsuyo Arai

2024 年 12 月

(5,428 字)

* 写真は文末に掲載しています

スリランカ政治史の転換点

スリランカでは 2024 年 9 月 21 日に大統領選挙が行われ、人民の力 (NPP) 代表のアヌラ・クマーラ・ディサナヤケ (通称 AKD) が当選した。NPP は、大統領選挙の時点で国会にわずか 3 議席しかもたない小政党だった。ところが 11 月 14 日の国会議員選挙でも NPP は躍進し、過半数議席を獲得した。

1978 年に大統領制が導入されて以来、基本的にスリランカの大統領は伝統的な二大政党である統一国民党 (UNP) とスリランカ自由党 (SLFP) のどちらかから選ばれてきた。また国会選挙においては、単一の政党が過半数議席を得ることはなかった。今回、第三勢力だった NPP から大統領が選出され、同党が単独で議会の過半数を制したことは、スリランカ政治史の転換点として記憶されるであろう。本稿では、この転換点に至るまでの経緯をみるとともに、NPP とその指導者 AKD の出自と台頭の背景を考察する。

アラガラヤとシステム・チェンジ

スリランカ政治に変革をもたらす原動力となったのは、経済危機に端を発した市民の抗議運動である。

2021 年末ごろからスリランカは経済危機に陥った。外貨不足のため輸入ができなくなり、燃料が不足して物価が高騰した。事態は徐々に深刻化し、ガソリンやガスボンベを求める長い行列ができた。電力の供給も滞り、一日の停電時間が 10 時間を超えることもあった。し

びれを切らした人々は、ろうそくや手書きのメッセージを掲げて静かに反政府の意思を示し始める。彼らは、当時の与党スリランカ大衆党 (SLPP) ¹ 政権を率いるマヒンダ・ラージャパクサ首相、ゴタバヤ・ラージャパクサ大統領らの失政 ² と、歴代政権の汚職や不正が経済危機を引き起こしたと批判したのである (荒井 2022a)。

2022 年 4 月になると、コロンボの中心部の緑地ゴールフェイス・グリーンに全国から市民が集まり、テントを張って長期にわたる反政府デモを始めた。「アラガラヤ」(シンハラ語で闘争を意味する) と呼ばれたこのデモは、指導者不在の市民運動であり、政治の全面的な変革を意味する「システム・チェンジ」と大統領の辞任を求めた。5 月にはマヒンダ首相が辞任したが、ゴタバヤ大統領は「負け犬として去る」ことはないとして退任を拒んだ。これが市民の怒りを買って、7 月に大統領公邸がデモ参加者に占拠された。結局、ゴタバヤ大統領は海外に逃れ、シンガポールから辞表を提出した (荒井 2022b)。

ラニル大統領の経済復興策

マヒンダ首相とゴタバヤ大統領が辞任したことで、アラガラヤの要求の一部は実現したが、システム・チェンジが実現したとはいえなかった。なぜならゴタバヤに代わる新たな大統領には、国会議員による投票でラニル・ウィクレマシンハが選出されたからである。ラニルが党首を務める統一国民党 (UNP) は、かつて二大政党のひとつであった。ところが 2020 年 2 月に分裂し、議員の多くが新党に移籍した結果、同年 8 月に行われた国会選挙で UNP は 1 議席しか獲得できなかった。その UNP に所属するラニルが大統領に選出されたのは、与党 SLPP の支持を得たからである。つまり、アラガラヤはマヒンダとゴタバヤの追放には成功したものの、彼らの支持に頼る人物が新たな大統領に就任するという皮肉な結果となったのである。任期途中で辞任した大統領の後継者を国会議員による投票で選出するのは、憲法に従ったプロセスである。しかし市民のあいだには、本来大統領は国民の直接選挙で選ばれるべきだとし、ラニルの大統領就任を批判する声もあった (DeVotta 2022)。

大統領就任後、ラニルは経済復興に注力した。2022 年 9 月には国際通貨基金 (IMF) から資金提供の合意を得る。付加価値税 (VAT) の税率引き上げ、課税対象の拡大、新税の導入や、電気料金引き上げ、国有企業の再編など、財政再建のために必要だが国民には不人気な政策を断行し、財政収支を改善した (Aneez 2024)。2022 年 7 月には輸入の 1.1 カ月分しかなかった外貨準備は、1 年後には 2.7 カ月分、2 年後には 3.9 カ月分まで回復した。対ドル為替レートは、2022 年 7 月の 1 ドル=360.8 ルピーから 2024 年 7 月には 1 ドル=303.7 ルピーに改善した。経済復興にある程度めどがついたところで、ラニルは任期終了 ³ にあわせて大統領選挙を実施すると発表した。経済復興という十分な功績があるので大統領選挙を乗り切れると考えていたようだ。

大統領選挙で AKD が前回の 41 万票から 563 万票に大躍進

大統領選挙は直接選挙で行われる。今回の選挙ではこれまでで最多の 39 人が立候補したが、実質的には現職のラニル、UNP から 2020 年に分離した統一人民の力 (SJB) のサジット・プレマダーサ、NPP のアヌラ・クマラ・ディサナヤケの 3 人の戦いとなった。現職ラニルは、汚職や不正、政策の失敗で国益を損ねたマヒンダやゴタバヤらラージャパクサー族と同類とみなされていた。しかし、立候補登録の締め切りを目前に、SLPP がマヒンダの長男ナルを大統領候補に擁立すると発表したことによって流れが変わる。SLPP と袂を分かったラニルは、ネガティブなイメージを払拭して勢いづいた。その後 SLPP 議員や SJB 議員のなかから、離党してラニル支持を表明する者が相次いだ。他方、サジット支持を表明する SLPP 議員、タミル政党議員が出るなど、国会議員のあいだでは他党の大統領候補を推す動きがさまざまなかたちでみられた。

ラニル、サジット陣営がライバル陣営議員の支持表明を当然のごとく受け入れたのに対し、NPP は他党議員の受け入れを拒否した。汚職や不正の一掃を唱える NPP は、既存の政治から脱却する姿勢を堅持したのである。

議員らがラニル支持を次々と表明したものの、有権者のラニル支持は低迷し、選挙は SJB のサジットと NPP の AKD の一騎打ちとなった。

前回の大統領選挙(2019年)では、当選した SLPP のゴタバヤの得票数は 692 万票(52.25%) 次点のサジットが 556 万票(41.99%) だったのに対して、AKD はわずか 41 万票(3.16%) しか獲得できなかった。そのため民間の世論調査では AKD がリードしていると伝えられたものの、当選に必要な過半数を得るのは難しいのではないかというのが大方の見方であった。

しかし、AKD は予想を上回る票を獲得することになった。NPP は大統領選挙実施のかなり前から、草の根レベルの支持固めをするなど選挙の準備を整えていた。伝統的な二大政党がどちらも分裂を解消できないまま、各々が候補者を立て票が割れたことも影響した。

AKD は、1 回目のカウントで 563 万票(42.31%) と過半数を取れなかったものの、サジット(436 万票、32.76%) やラニル(229 万票、17.27%) を大きく引き離れた。そして 2 回目のカウントで過半数を得て⁴、大統領に当選した。スリランカの有権者が選んだのは、既存の政治の汚職や不正を失くすことを主張した NPP であった。

NPP と AKD の来歴

新大統領 AKD の率いる NPP は、人民解放戦線 (JVP) を中心に 21 の労働組合や団体が 2019 年に創設した政党である。NPP は新しいが、母体となった JVP は新しい政党ではない。

JVP は 1965 年に、それまでの左翼政党に飽き足らない青年らによって設立された。1971 年に反政府暴動を起こしたものの、すぐに鎮圧された。その後も活動を続け、1980 年代後

半には反インド、シンハラ民族主義を掲げて再び反政府暴動を起こす。政府の転覆を試み、数年にわたり警察や軍、治安部隊との間で激しい攻防があった。JVP の勢力が強い地域では、同党は「夜の政府」と呼ばれていた。後のスリランカ司法当局の発表によれば、JVP と治安当局の抗争による死者・行方不明者は数万人に達した。

しかし、政府軍や治安部隊によって 1989 年末に平定されてからわずか 5 年後、JVP は過激な左翼思想を路線変更し、国会を舞台として活動することになる。2004 年の国会議員選挙では 39 議席を獲得し、連立政権に加わった。その後は議席は少ないながら野党として存在感を保っていた。

NPP のリーダー AKD は、中央州マータレー県の農村に生まれ、1987 年ペラデニヤ大学在学中に JVP に参加した。1997 年に党中央委員会委員に任じられ、2004 年以降国会議員を務めている。議員としてはベテランに属する。2004 年から 1 年ほどであるが農業・畜産大臣に就き、2014 年から党リーダーを務めている。

2024 年の大統領選挙で AKD は、独立以来続いた二大政党による政治が不正と汚職にまみれ、国を混乱状態にしたことを批判し、清廉で無駄のない国づくりを行うと宣言した。大統領選挙戦の終盤には、JVP の暴力的な過去を想起させるような発言や経験不足を指摘する声に対立候補からあった。しかし不正や汚職、前政権の失策によって深刻な経済危機を経験した国民にとって、二大政党に対する不信任は強く、汚職や不正から遠い JVP に対する期待感が強かった。2022 年のアラガラヤが求めたシステム・チェンジが 2 年越しで実現したといえる。

AKD は就任演説で、自分は奇跡を起こす魔法使いではないと語り、問題解決に時間がかかることへの理解を求めた (Srinivasan 2024a)。その一方で、AKD は大胆な決定を迅速に下していく。就任からわずか 2 日後の 9 月 24 日には国会を解散し、11 月 14 日に国会議員選挙を行うと発表した。同時に自身と NPP 議員 2 人の 3 人からなる暫定内閣を組閣した。近年のスリランカでは政治的忠誠をつなぎとめるために多くの議員に大臣ポストをあてがう傾向にあったことから、暫定内閣とはいえ 3 人という数字は驚きをもって迎えられた。他党からの党籍替えを受け入れていたなら実現しなかった思い切った決断である。首相に学者で国際 NGO でも経験を積んだ女性のハリニ・アマラスーリヤを起用したことも注目された。

総選挙で NPP が定数の 3 分の 2 を上回る圧勝

大統領の迅速な動きにライバル政党は、国会議員選挙の準備どころか大統領選敗北の分析・対応さえできていない状態であった。SJB と UNP は国会議員選挙での協力や再統合により支持を増やすこともできたはずだが、どちらも実現しなかった。前与党 SLPP 党首のマヒンダは立候補さえ見送った。

有権者は政治的不安定をもたらしかねない大統領と国会のねじれを嫌う。くわえて、大統領選挙から間もなく、有権者と NPP のハネムーン期間に実施される選挙となったため、同

党の勝利はほぼ確実とみられていた。NPP が有利との観測が広がるなか、ライバル政党はアルファベットの「L」が書かれた板をかざして対抗した (*Lanka Leader*, 12 November 2024)。L ボードは「運転練習中」の表示で、日本の「初心者マーク」にあたる。つまり旧来の勢力は、政治経験のない議員に国を任せる危険性をアピールしたのである。

結果は NPP の大勝であった。NPP は、686 万票 (61.5%) を得て 225 議席中 159 議席を獲得した。第 2 党となった SJB は 196 万票 (17.6%) で 40 議席、対して SLPP の得票数はわずか 35 万票 (3.1%) で、3 議席に終わった。内戦の終結に貢献したことで国民から圧倒的な支持を得ていたマヒンダの神通力はもはや跡形もない。

NPP がタミル人の多い北部でも議席を獲得したことは注目に値する。同党は選挙運動中はシンハラ民族主義的な主張を控えていたものの、その母体である JVP は、決してタミル人に寄り添う政党ではない。にもかかわらず、北部で NPP が議席を得たことは、タミル政党への不信感や変化に対する期待感の現れであろう (Balachandran 2024)。

女性議員が多く選出された点も目新しい。前回、前々回の国会では、女性議員の数はそれぞれ 13 人、12 人だったが、今回の選挙では 22 人の女性議員が選出された。

新政権に対する懸念

過半数を大きく超え、憲法改正も可能な全議席の 3 分の 2 を上回る議席数を獲得した NPP ではあるが、ライバル政党が指摘したように圧倒的に経験が不足している点が危惧される。AKD を含む数人が短い期間、大臣職についていたのみである。

もう一つの懸念事項は経済運営である。ラニルが道筋をつくり推進した経済復興を、NPP がどれほど継続するかに関心が集まっている。AKD は就任早々 IMF との協議を速やかに開始すると述べたことから (Srinivasan 2024b)、IMF の関与は継続するだろう。ただ IMF から資金を得るためにはマクロ指標を改善させるだけでは足りず、各種の改革を実行しなければならない。改革については、国会で安定的な議席数を得たことから実現の難易度は下がった。国民も変化を求めている。しかし、NPP にはいくつかの労働組合が参加しており、すでに前政権が 2024 年に承認した電力公社改革法を改正すると宣言している (*Business Standard*, 5 November 2024)。

新大統領と NPP がスリランカを復興に導けるか否かは、国民の信任が得られているあいだに政権基盤を安定させ、長期的な経済戦略を実現できるかどうかにかかっている。■

※この記事の内容および意見は執筆者個人に属し、日本貿易振興機構あるいはアジア経済研究所の公式意見を示すものではありません。

写真の出典

- ITN News (Sri Lanka). (CC BY 3.0)

参考文献

- 荒井悦代. 2022a. 「なぜ、スリランカで抗議行動は起きたのか？——経済危機から政治危機へ」『IDE スクエア』4月.
- 荒井悦代. 2022b. 「スリランカの政治・経済危機——ラージャパクサー族支配の崩壊か？」『IDE スクエア』7月.
- Aneez, Shihar. 2024. “Sri Lanka’s”President by default loses for third time after tough economic reforms.” *Economynext*, September 22.
- Balachandran, P.K. 2024. “Tectonic shift in Sri Lankan Tamil politics.” *Counter Point*, November 17.
- DeVotta, Neil. 2022. “Colombo’s controversial new president.” *East Asia Forum*, July 24.
- Srinivasan, Meera. 2024a. “Anura Kumara Disanayake sworn in; says he is no magician.” *The Hindu*, September 24.
- Srinivasan, Meera. 2024b. “Will swiftly begin talks with IMF, says Disanayake.” *The Hindu*, September 25.

著者プロフィール

荒井悦代（あらいえつよ） アジア経済研究所地域研究センター南アジア研究グループ長。著作に『内戦終結後のスリランカ政治——ラージャパクサからシリセーナへ』アジア経済研究所（2016年）、『内戦後のスリランカ経済——持続的発展のための諸条件』（編著）アジア経済研究所（2016年）『モルディブを知るための35章』（編著）明石書店（2021年）など。

注

- ¹ 2016年にSLFPから派生した政党。マヒンダ・ラージャパクサを党首とする。
- ² 2021年、ゴタバヤ大統領は突如として化学肥料の禁止を発表し、農業生産特にコメ生産に多大な影響を及ぼした。
- ³ 任期途中で大統領職を辞したゴタバヤの本来の任期終了が後任大統領の任期終了となる。
- ⁴ スリランカの大統領選挙では、候補者が4人以上の場合、有権者は当選させたい順に1、2、3の数字を記入する。1回目のカウントでは1が記入された票を数える。ここで過半数を得た候補があれば、その候補が当選者となる。1位の候補者が過半数に達しなかった場合、3位以下の候補者が得た票について2が記入された票を上位2位の候補者に配分する。2024年の大統領選挙では、初めて再カウントが行われた。



新大統領に選出されたアヌラ・クマラ・ディサナヤケ（2019年当時）